

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1273400265
法人名	医療法人恒久会
事業所名	グループホームならわの家
所在地	千葉県袖ヶ浦市奈良輪718-1 (電話) 0438-62-1168

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	12月18日

【情報提供票より】(19年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月1日(平成15年9月1日増床)		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算15.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨陸屋根造り		
	4 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	食39,000 + 水光熱17,000 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口医院 木更津病院 きっかわクリニック
---------	----------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

内房線袖ヶ浦駅に近く、周囲は民家が多い環境である。母体の医療法人恒久会山口医院は地元で代々続く医院であり、隣接する介護老人保健施設メディケアやまゆりと共に、医療連携が充分図られている安心感がある。開設5年が過ぎ、職員の研修も充実してきており、質の高い介護に向けた意気込みが感じられる。新たな理念である、「なごやかでらんらん楽しいわたしのホーム」の実現に向け、職員の意識も高まり、入居者の表情は明るく、穏やかである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	画一的でわかりづらいという評価を受けた理念は新しく作成され、ホーム内の目につく場所に張り出されている。職員も個々にカードに入れて持ち歩き、唱和の機会も取られている。家族会でも報告されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価に参加し集計されているため、調査に関する意識も高い。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎開催されている。市の高齢者支援課、市議会議員、地区副分区長や、家族会代表等の参加で主催され、ホームの状況報告等が詳細に行われている。外部評価について、また運営推進会議の今後の方向性等話し合われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会が実施されている。職員抜きの討議時間もたれている。職員の資格公表の要望等、意見は丁寧に検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りの行事は定例となっている。ホームから発信した収穫祭は近隣に呼びかける形で行われている。地域住民に向け、ホームの理解を図るうと前向きに取り組む姿がみられている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を受けて新規に作成された理念は「なごやかで、らんらん楽しい わたしのホーム」である。ホームの名前を一字ずつ頭文字にした、分かりやすいものとなっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に目につく場所に掲示し、日々の介護に取り入れるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや、菊祭り等に参加している。ホームからも収穫祭のお知らせを市のカウンターに置いたりと努力している。		地域の老人会等への参加を図るなど、引き続き住民との関係を深めていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて新たな理念を作成し、前向きに取り組んでいる。職員一丸となって調査項目を検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議では、家族会代表も含まれる中、ホーム内の入居者、職員の状況も含め公表されている。市職員の情報等運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	副分区長等も参加した運営推進会議が実施されているため、その会議への参加により、ホームのアピールや今後の方向について検討されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ならわの家ホームたよりが配布され、ホーム内の様子が理解されている。入居者個々の状態は必要に応じて随時行う。金銭管理面の報告も行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱が置かれている。家族会では、職員不在の時間が設けられ、自由に意見の言える場所が作られている。そこで出た要望はホームで検討され、実施されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族会等において組織図を示し、人員配置を知らせている。また新しい職員は入居者の前であいさつスムーズに入職する努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員による勉強会が月1回実施されている。職員一人ひとりが担当することで、テーマがより身近なものとなっている。出勤日ではない職員も参加するなど、意識は高い。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に参加した。新たな情報を研修等の幅を広げる事に活用したいと取り組んでいる。		グループホーム連絡会には参加したばかりなので、今後同業者との交流の幅を広げていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の訪問調査において入居者本人、家族の意向を伺っている。居室に馴染みの品を持ち込むなど、持ち物の工夫がなされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の特技を活かし、特に調理は、具材の切り方、味付けに至るまで、職員が学んでいたり、入居者が心配し気遣ってくれる場面もある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、その人らしさを大事にケアしている。入居後しばらく、自宅に帰りたくなりしばしば外出する入居者を後からついていって根気良く見守るなど、気持ちを大事に入居者と接している。</p>		
aida					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を、家族、職員を含め開き、その意見を反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとに評価をし、6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。また入居者の状態や介護度が変化した時は、随時見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人が運営主体であり、病院長の訪問診療が2週に1度ある。また看護師が毎週ホームに来ている。医療との連携が密接なことは、入居者、家族、職員に安心と落ち付きを与えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時における24時間体制での対応を母体の病院と契約している。その病院が入居者のかかりつけ医ともなっている。眼科等の他科受診は、家族が同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り介護に関する指針は作成されているが、まだ事例はない。母体病院と密接に連携が取れる状況を生かし、柔軟に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回の勉強会やリーダー職員の助言などにより、プライバシー確保に尽力している。とくに、入浴時や排泄時には気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、入居者の要望を優先している。レクリエーションなども無理強いせず、自由参加にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒に準備、食事、後片付けをしている。食材は季節の旬の物が用意され、見た目も色とりどりである。食器も色や形が多様で、食事を皆で楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則午前中、週5回(水、日休み)であるが、希望に応じ柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、調理、後片付けなど役割り分担表ができています。また敷地内の菜園で、農業経験者が活躍していたり、若い職員に魚のはらわたの取り方を教えたり、生活を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブにでかけている。外出を好まない入居者のためには、玄関前にテーブルと椅子を置き、外の空気を吸ってもらうようにしている。		日常的に外出するのは一部の入居者に留まっているため、何らかの形ですべての入居者が地域と触れ合える外出の機会を持つように工夫することが促される。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。2階のみ、ドアの開閉時にチャイムが鳴るしくみになっている。玄関が見える位置に職員がいるようにしており、見守りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を入居者とともに実施。そのうち1回は夜間を想定している。建物の4階が法人の職員寮になっており、災害時には応援する体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者別一覧表により、食事量や水分摂取量を把握している。食事はほとんどの入居者が残さず食べている。脱水には特に注意している。献立は法人の管理栄養士が作成したものを基に作成し、栄養チェックをしている。食材は、週2回スーパーから配達されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可動式の畳が食堂に置かれたり、廊下の途中に3人がけのソファが置かれ、入浴後の休憩や、おしゃべりの空間として活用され、暖かい雰囲気を作っている。100歳を迎えた入居者へのお祝いの花が飾られ、明るい雰囲気が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製のロッカーだけが共通である。自宅訪問時等に、入居者や家族と相談し、入居者本人の希望どおりに持ち込むものを決めている。それぞれの部屋に、塗り絵をしたカレンダーがかけられている。		